

中社高
講座とふるさ

夢への歩み方を学ぶ

書家の安藤梨影さん講師に

高社中学校は14日、書家の安藤梨影さん（本名上原恵子、69・深沢）を講師に招き、ふるさと講座を開催。3年生が体育館に机を

並べて書を書きながらそれぞれの夢に向かう姿勢について考えた。

安藤さんは書の歴史を紹介しながら、古典を手本に



基本の大切さを説く安藤さん

まねて書く「臨書」が基本の勉強として重要であると説き、「動きに余分なものがない、自然で普遍、合理的なものが残されている」古典に向き合う際には「先入観や自己、我をなくして真つすぐな気持ちで点、線を見る」ことが大切と指南。まずは「自分を無にして手本をまねる」ことで形に入り、基本を習得した上で「自分らしい表現をする」という一連の行為が「どの分野でも夢への歩みに続

いる。

大会に使うかるたは1枚A2サイズで、1・2年生の部、3・4年生の部、5・6年生の部がある。会場は中野市コミュニティスポーツセンターで午前9時から正午ごろまで。参加無料。申し込み締め切りは6月1日。問い合わせ、申し込みは同会議所 ☎26・3412へ。

中野青年会議所

ジャンボばら かるた大会

6/23 参加者を募集

中野青年会議所では、特大の札を用いた「ジャンボばらかるた大会」を6月23日に開催するため、小学生の参加者を募集している。このかるたは、同会議所

がすすめる、バラの街づくりの一環で、幼いころから花に親しんでもらおうと企画。一本木公園にある品種のバラの絵札に、花の特徴や栽培方法を読み札にして



安藤さんの筆の運びを無言で見つめ続ける生徒

いていく」方法だと話した。また「硯で筆先を直さず、終筆で筆先を整える」などの技術面も指導しながら「心技体が一体となった

とき、人を感動させることができ、自分も満足できる」成長していく上では「フイバルも大切だが、（結局は）自分との闘いだ」と気づく」などと道を究めるための普遍的な考え方も教示。そして「私もまだ夢の途中」だとして、ブドウ農家の仕事も忙しいなか「80歳になったらどんな線が書けるか。生活と書することを一体としてこの北信濃に生きていこう」と思っている」と決意も語った。

(北信口ーカル9面 2012年5月18日)